

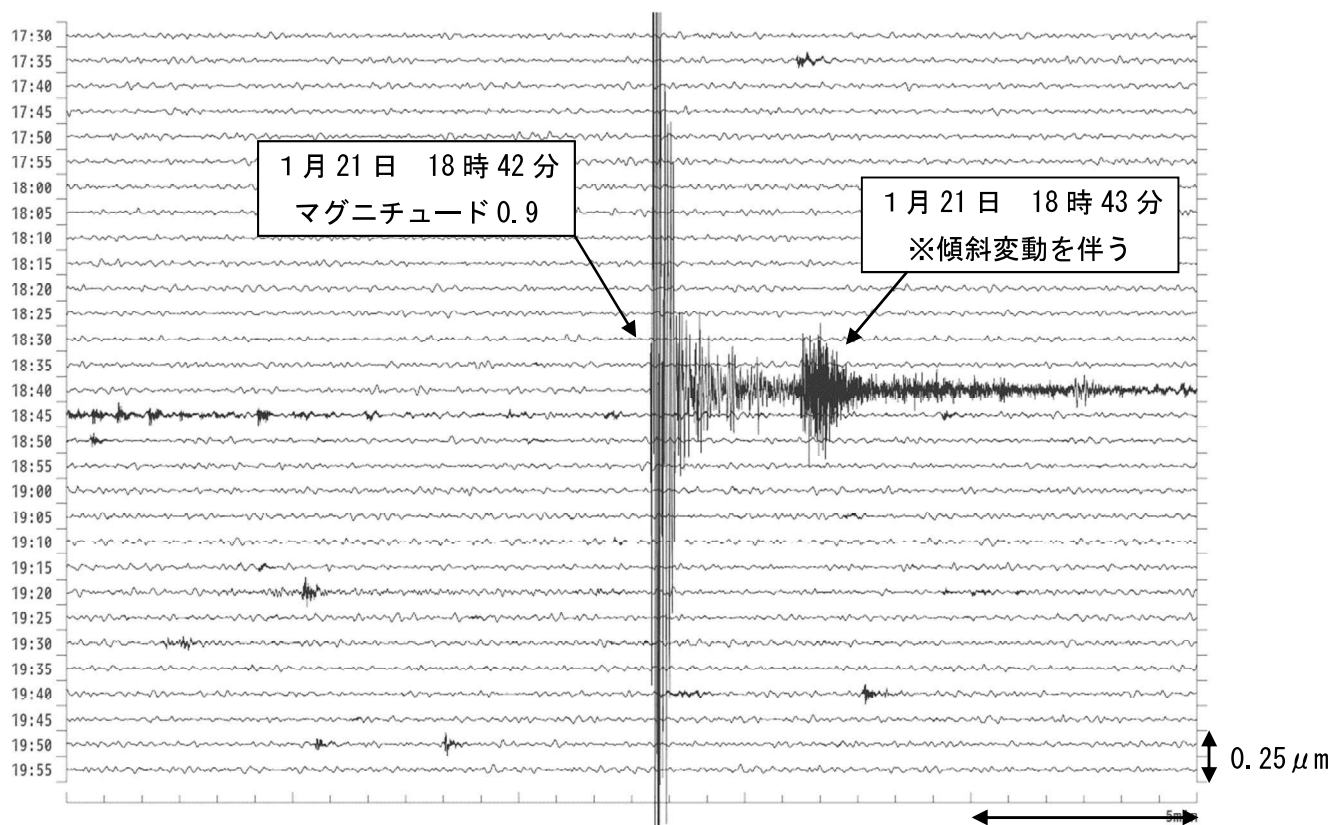


図13-1 十勝岳 火山性地震の発生状況（2022年1月21日17時30分～20時00分）
避難小屋東観測点の変位波形上下成分

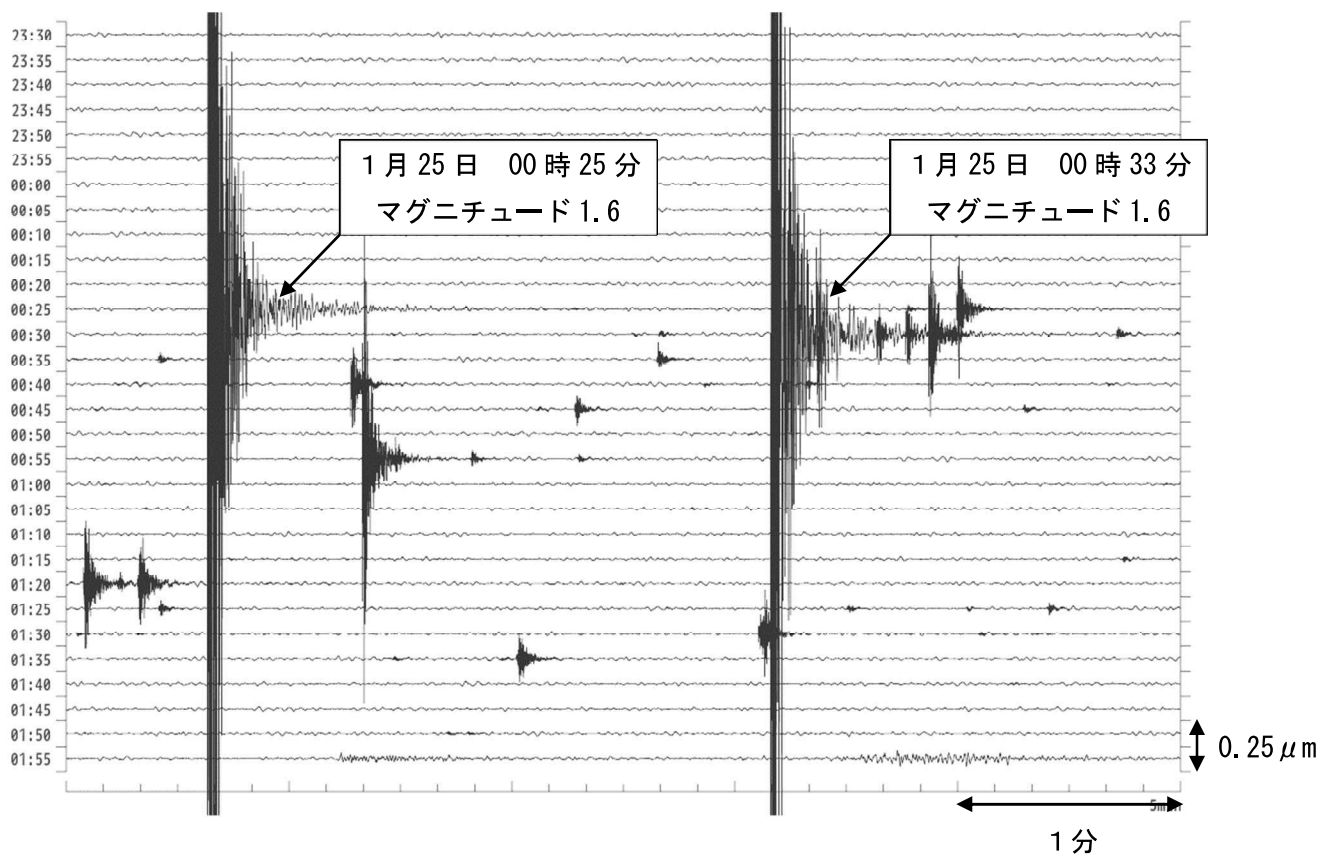


図13-2 十勝岳 火山性地震の発生状況（2022年1月25日23時30分～26日02時00分）
避難小屋東観測点の変位波形上下成分

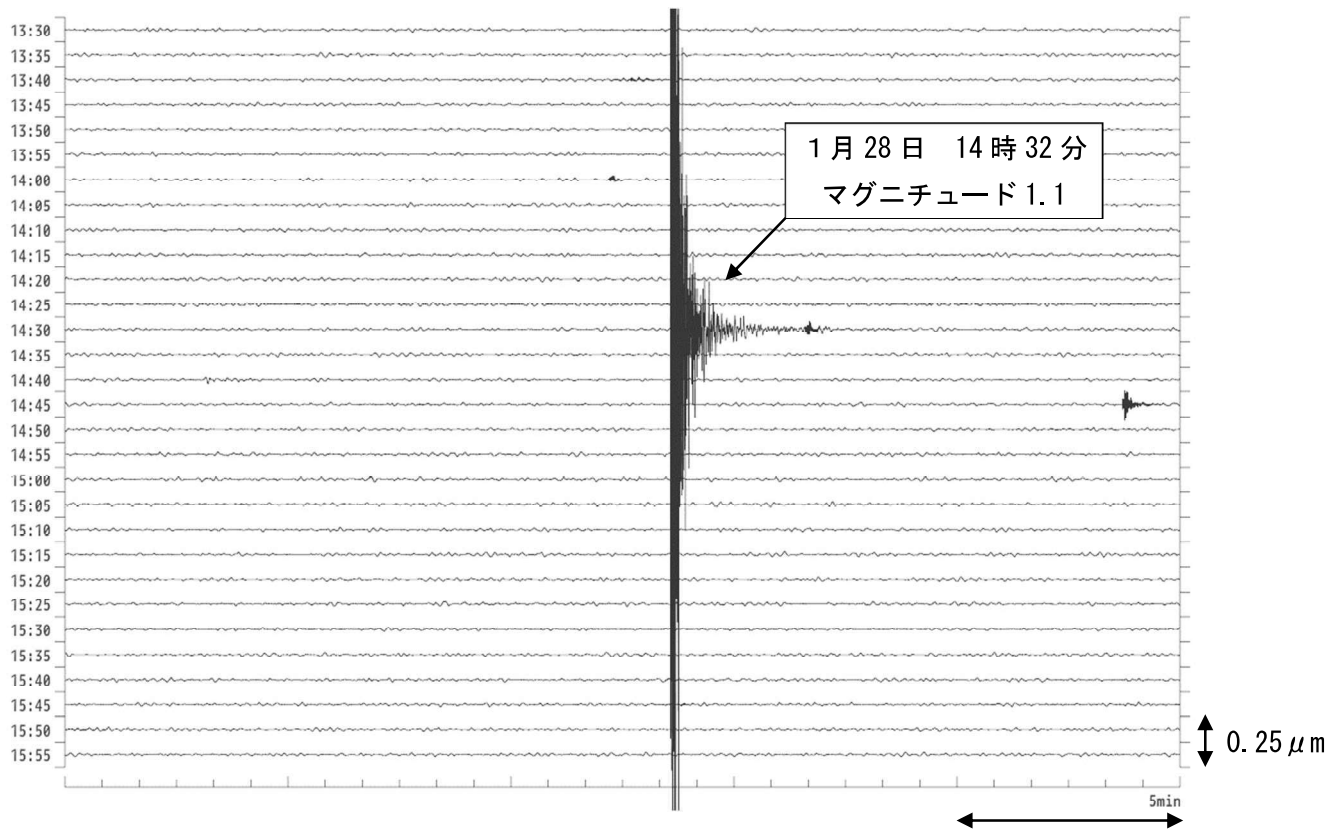


図13-3 十勝岳 火山性地震の発生状況（2022年1月28日13時30分～16時00分） 1分
避難小屋東観測点の変位波形上下成分

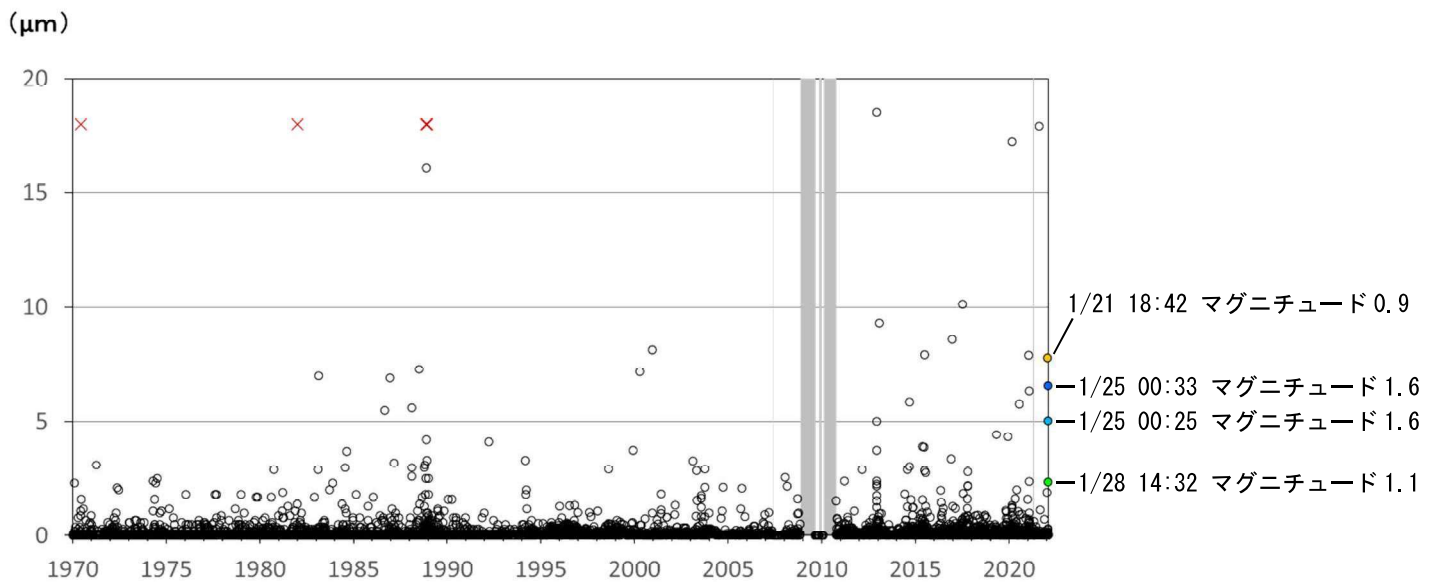


図14 十勝岳 火山性地震の最大振幅（硫黄沢観測点変位振幅上下成分：1970年～2022年1月）

計数基準 1970年～1996年：硫黄沢振幅 $0.05\mu\text{m}$ 以上 硫黄沢S-P 3秒以内

1997年～：硫黄沢振幅 $0.05\mu\text{m}$ 以上 避難小屋東S-P 2秒以内

×：振幅振り切れ 灰色の期間：欠測

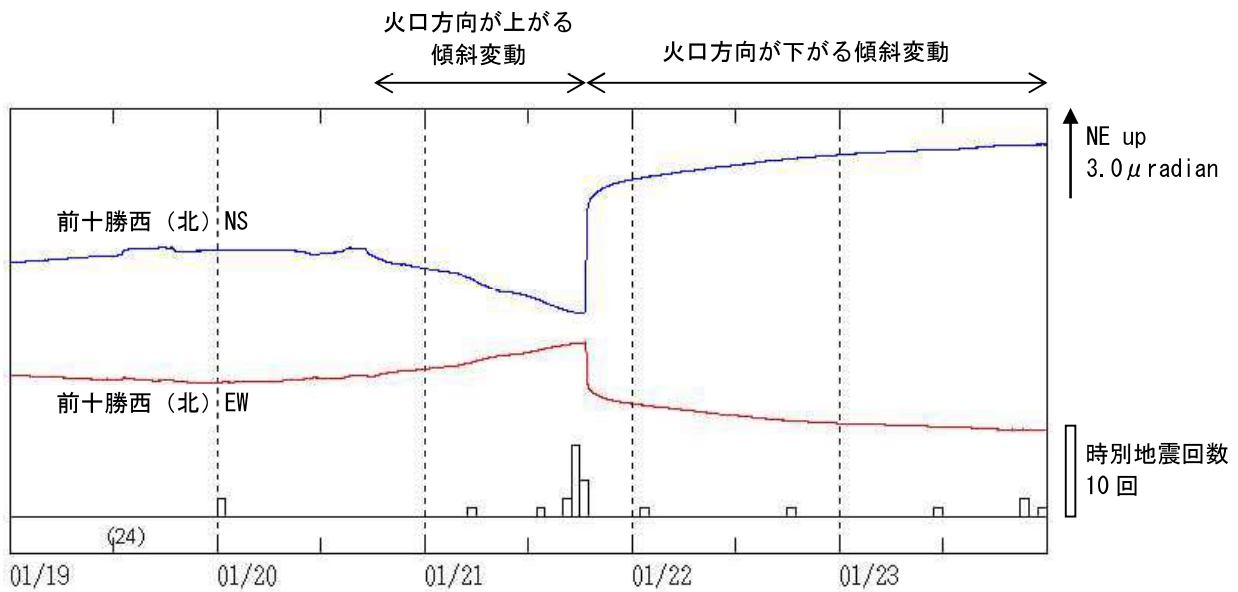


図15-1 十勝岳 2022年1月19日から23日までの傾斜変動（分値）と特別地震回数

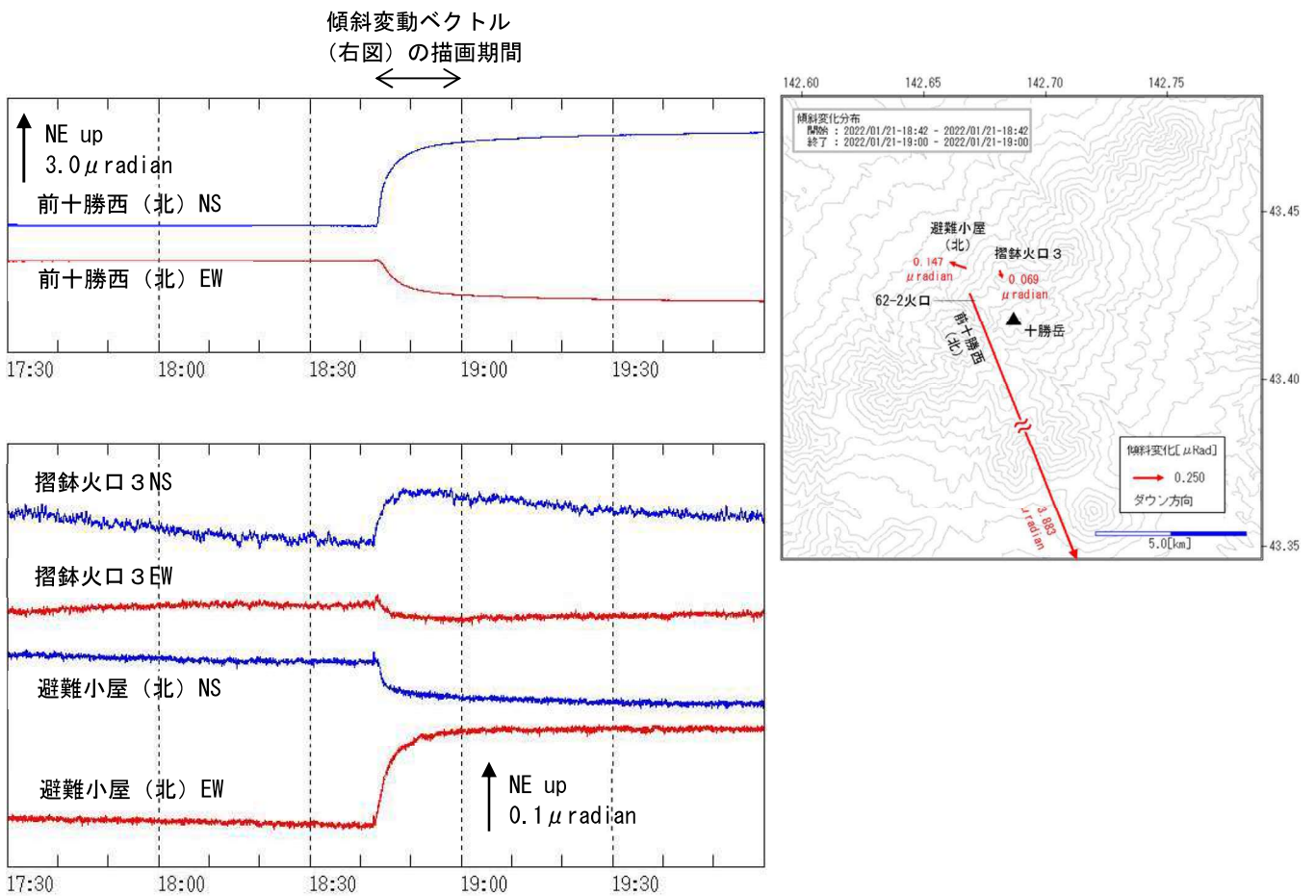


図15-2 十勝岳 2022年1月21日17時30分から20時00分までの傾斜変動（秒値）及び傾斜変動ベクトル

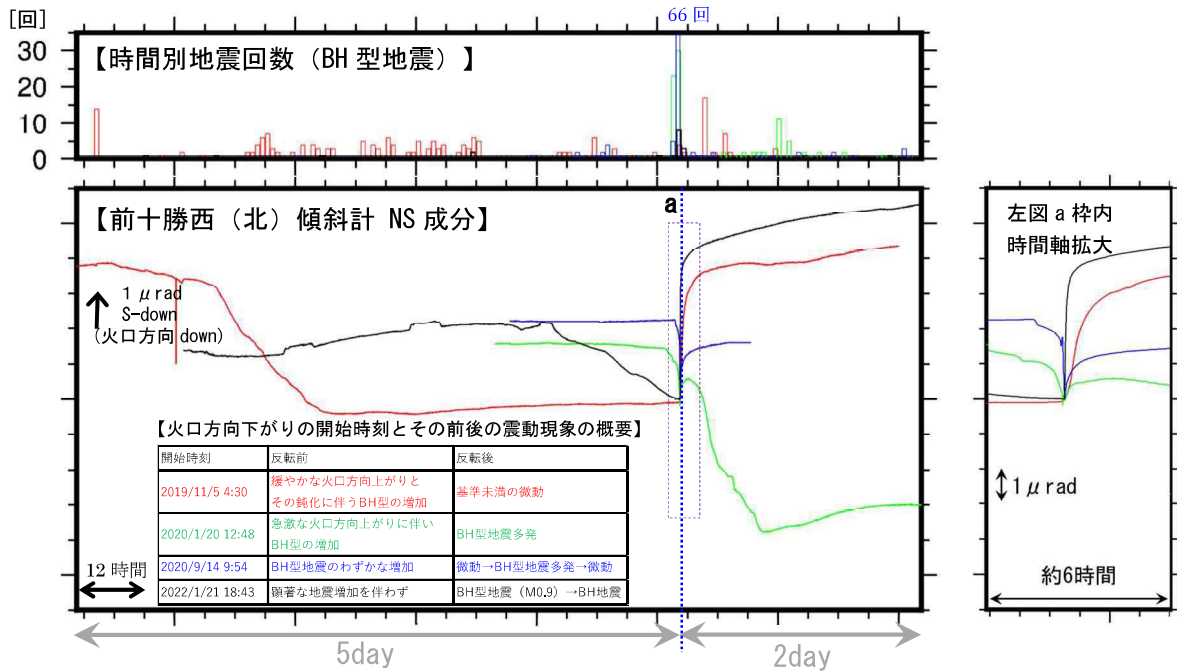


図 16-1 十勝岳 2018 年 5 月以降に観測された震動を伴った主な傾斜変動（4 事例）の比較

2018 年 5 月以降に観測された北海道大学の前十勝西観測点（62-2 火口の中心から約 0.6km）で 1μ rad 以上の変動を伴った 4 事例について、変動方位が反転するタイミングを合わせて時間推移を比較しています。

- いずれの変動も、特段の表面現象を伴わなかったこと、62-2 火口方向上がり→下がりの時間推移が共通していますが、火口方向下がりに至るまでの変動推移やそれに伴う地震活動の状況には相違がみられます。

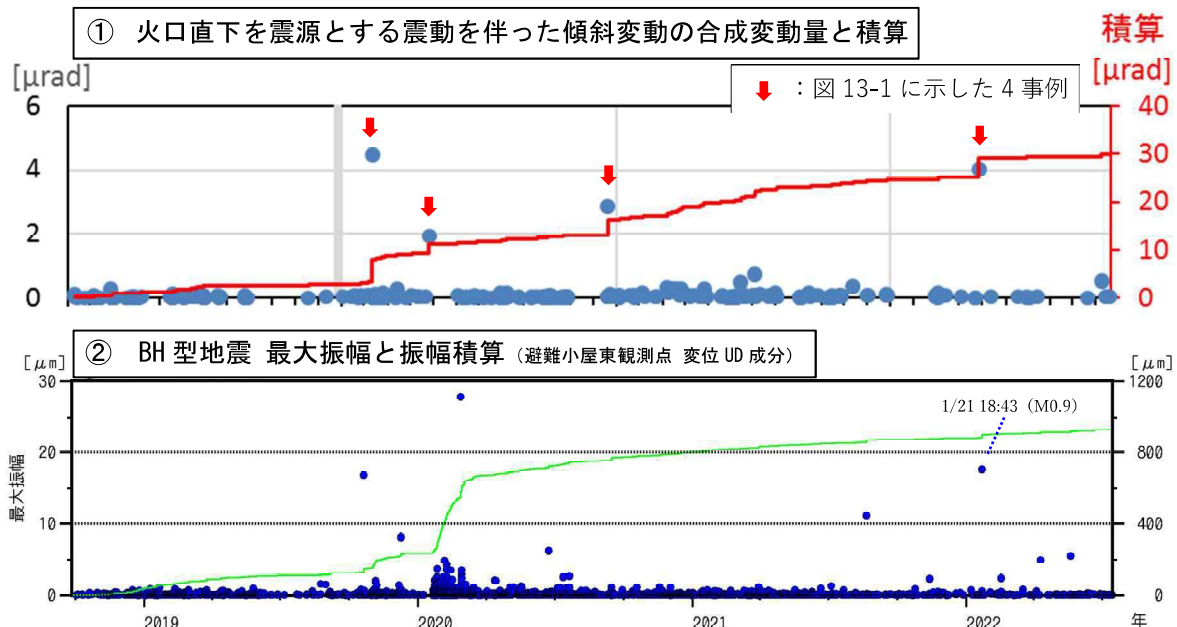


図 16-2 十勝岳 2018 年 5 月以降に観測された震動を伴う傾斜変動の変動量と伴った地震の推移
(2018 年 9 月 26 日～2022 年 7 月 14 日)

- 2022 年 1 月 21 日の傾斜変動は他の 3 事例と比べると、火口方向下がりの変動レートや変動量が比較的大きく、やや規模の大きな BH 型地震 (M0.9) を伴ったが、前後の地震回数は少ない状況でした。